

# 神奈川県優勝！女子完全制覇

全日本リレー大会 2006年11月5日 兵庫県神戸市

木村佳司

全日本リレーの総合優勝は神奈川県！その原動力は4階級をすべて制覇した女子の活躍にあった。



神奈川県女子シニアメンバー  
(金子しのぶ/志村聡子/宮川祐子)

## 完全勝利の女子クラス

女子選手権	1位	神奈川県
女子シニア	1位	神奈川県
女子ジュニア	1位	神奈川県
女子ベテラン	1位	神奈川県

神奈川県が女子クラスのすべての階級を制覇した。こんな例は今までに記憶がない。神奈川県は男子選手権でも5位入賞を決め、総合得点で見事優勝を収めた。

## 神奈川のエース番場



神奈川県女子選手権クラスメンバー  
(石山佳代子/番場洋子/朴峠周子)

昨年まで女子で圧倒的な強さを誇った京都府を支えていた番場洋子が今年から神奈川県に移籍。神奈川県女子選手権チームはその番場を軸に石山と朴峠で構成。石山と朴峠はこの春に日本女子大学をインカレ優勝へとともに導いたメンバーだ。

序盤は埼玉の皆川、東京の志村、北海道の酒井、岩手の幸村に続き、神奈

川の朴峠はトップに4分差。

番場洋子は続く第2走者として出場。全選手中唯一40分を切る区間タイムを叩き出し、神奈川を1位へと押し上げる。

神奈川アンカーの石山を、埼玉の米谷が追う展開。2006年春のインカレミドル優勝者を、2006年秋のインカレロング優勝者が追う展開となった。この勝負、石山が逃げ切って神奈川が優勝を決めた。

### 女子選手権 (WE)

1	神奈川県	2:15:45
2	埼玉	2:20:55
3	東京	2:33:55
4	岩手	2:43:11
5	長野	3:14:16
6	滋賀1	3:16:33
7	大阪	3:21:18
8	北海道	3:27:14
9	広島	3:31:41
10	新潟	3:39:49
11	千葉2	3:49:57
12	愛知	4:30:22
13	千葉1	5:21:21
	茨城	mp
	静岡	mp
	滋賀2	mp
	京都	mp

叩き出し、そこからは神奈川の独壇場となった。出田は元々神戸に住んでいた経験を持ち、競技の行われた場所はいわばホームテレン。出田にとっても意地を見せたい場所であったらう。

出田はインカレ黎明期に活躍した選手。神奈川ジュニアで活躍した選手はまさに今がインカレ世代。ジュニアからベテランまでインカレ世代で揃えた神奈川県が総合優勝を飾ったことは象徴的だった。

### 女子シニア選手権 (WS)

1	神奈川県	1:35:29
2	大阪1	2:11:41
3	兵庫+徳島	2:14:55
4	大阪2	2:20:54
	千葉	mp
	静岡	dnf

### 女子ベテラン選手権 (WV)

1	神奈川県	1:48:15
2	愛知	2:03:51
3	大阪	2:40:45
4	東京	2:56:01

### 女子ジュニア選手権 (WJ)

1	神奈川県	1:48:48
2	愛知1	2:10:34
3	愛知2	3:34:59
	京都	mp

## インカレ世代がリレーを席巻



神奈川県女子ベテラン1走の出田

神奈川県女子ベテランの立役者は出田裕子だろう。1走でダントツのタイムを



兵庫のじぎく国体のマスコット「はばタン」。優勝した神奈川県に、ぬいぐるみがプレゼントされた。リレー会場では「はばタン」のテーマソングがパワープレイされ、今でも耳に残って離れない。

## 東京・男の意地

昨年、クラス優勝は果たさなかったものの総得点で総合優勝を飾った東京だが、今年は違った。総合優勝こそ神奈川に持って行かれたが、男子選手権では見事優勝を手にした。

難しいテレンを如何にミスなく高速に走れるかが勝負のポイントになっ

た今年のレースにおいて、技術系トレインに強い篠原、鹿島田、加藤の3人を揃えた東京が頭ひとつ抜け出して勝負を掴んだ。



東京男子のウイニングラン  
(篠原岳夫 / 鹿島田浩二 / 加藤弘之)

#### 男子選手権 (ME)

1	東京	1:58:11
2	埼玉 1	2:01:58
3	茨城 1	2:06:07
4	愛知 1	2:09:32
5	神奈川 1	2:11:38
6	静岡 1	2:11:42
7	大阪 1	2:15:14
8	千葉 1	2:20:12
9	岐阜 1	2:21:47
10	滋賀	2:24:07
11	京都 1	2:26:10
12	長野 1	2:27:32
13	福島	2:28:41
14	京都 2	2:30:26
15	茨城 2	2:31:54
16	広島	2:32:42
17	埼玉 2	2:36:22
18	兵庫	2:36:55
19	大阪 2	2:38:32
20	長野 2	2:39:04
21	愛知 2	2:42:46
22	石川	2:42:54
23	神奈川 2	2:42:57
24	静岡 2	2:44:42
25	千葉 4	2:47:36
26	宮城	2:48:06
27	群馬	3:00:43
28	岐阜 2	3:04:41
29	新潟 2	3:13:58
30	岡山	3:49:19
31	千葉 3	3:54:57
32	千葉 2	3:58:56
33	愛媛	4:22:23
	北海道	mp

#### 男子シニア選手権 (MS)

1	大阪 1	2:15:46
2	広島	2:15:55
3	埼玉	2:16:38
4	愛知 1	2:20:08
5	東京	2:23:27
6	神奈川	2:28:49
7	千葉	2:34:16
8	静岡	2:44:01
9	岐阜	3:10:20

10	大阪 2	3:10:38
11	大阪 3	3:10:59
12	愛知 2	3:17:20
13	京都	3:23:12
14	岡山	3:54:49
15	和歌山	4:40:09
	福島	mp
	石川	mp
	滋賀	dnf



大阪男子シニア (瀧川)  
広島との接戦を制し、ガッツポーズ!  
シニア上位3チームは大接戦!

#### 男子ジュニア選手権 (MJ)

1	愛知 1	1:46:57
2	京都 1	1:51:56
3	千葉	1:55:40
4	愛知 2	1:55:54
5	神奈川 1	2:25:57
6	宮城	2:26:14
7	静岡	2:32:08
8	愛知 3	2:32:50
9	埼玉	2:36:44
10	滋賀 1	2:38:34
11	京都 2	2:53:37
12	東京 2	2:55:11
13	東京 3	2:56:43
14	兵庫	2:57:45
15	大阪	3:00:38
16	滋賀 2	3:01:39
	東京 1	mp

#### 男子ベテラン選手権 (MV)

1	愛知 1	2:26:27
2	三重 1	2:33:41
3	愛知 2	2:38:37
4	千葉	2:43:26
5	東京 1	2:44:06
6	大阪 1	2:46:25
7	神奈川 2	2:47:25
8	茨城	3:04:08
9	東京 2	3:17:48
10	大阪 2	3:45:23
11	群馬	4:24:06

12	山口	4:28:42
13	兵庫	5:16:55
	埼玉	mp
	神奈川 1	mp
	神奈川 3	mp
	石川	mp
	岐阜	mp
	愛知 3	mp
	滋賀	mp
	京都	mp
	広島	mp
	愛媛	mp
	岡山	dnf



北海道からの使者「ヒグマ」が会場に登場。  
2007年6月に北海道で開催される全日本大会の宣伝。

### 難しすぎた? コース設定

今回の全日本リレーで使用されたトレイン「再度公園」は、神戸市の六甲山系にあり、急峻で複雑な地形だ。この複雑な地形を活かしたコースが組まれており、コース難易度はかなり高かった。

このため、レースは全般的に荒れた。男子上位チームはこの難易度に対応したレースを進めたため、大きく崩れることはなかったが、中堅以降のチームではかなりミスを引き起こし、自滅してしまっただけだ。

女子選手権においては、まともなレースになっているのは上位2チームだけ。その上位2チームにおいてもミスの少ないレースをした神奈川が優勝したという結果になっている。

女子選手権3位以下のチームでは必ず誰かが大きなミスをしている。女子選手権においては競り合いというよりは、ミス比べといったレース展開になってしまった。

その結果、リレーオリエンテーリングの醍醐味であるスピード感が感じら

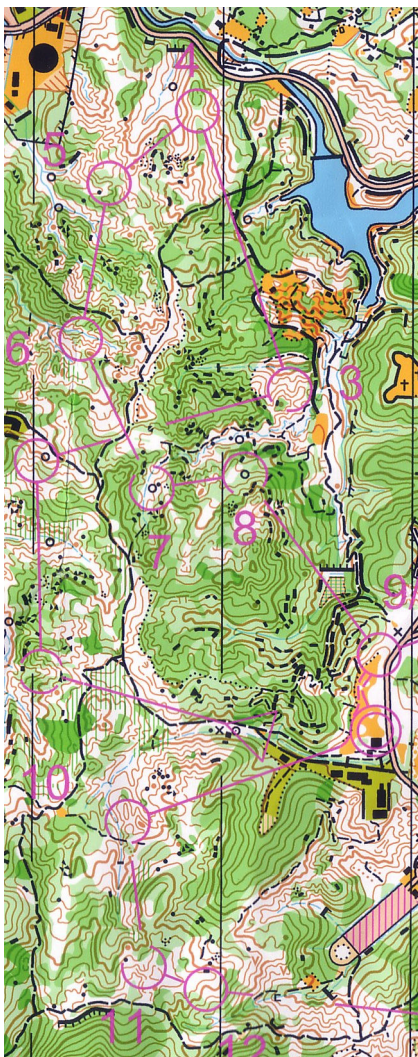
れないレース展開になってしまった。

3人リレーは3人でひとつのコースを回るオリエンテーリングであるとも言える。個人戦に比べ、チームとしてミスをする機会は3倍に跳ね上がるのだ。これがリレーの恐いところだ。

コースはこのトレインの特性を最大限に活かしたものだ。コース設定者は最大級の誠意でこのコースを用意してくれていることは想像に難くない。

しかし、これに挑む選手の技量がこれを楽しむところまで達していなかった。結果論になってしまうが、もう少しリレーらしい競り合いができる程度の難易度に抑えたほうが良かったと思える。

(木村佳司)



男子選手権のコースの一部

前半ループが終了した時点で一旦会場の横を通る。コースはトレインの通行可能度の良い部分を使用している。

## 復活！神奈川県！

神奈川県選手団長 尾上秀雄

ここ数年間低迷していた神奈川県ですが、今年の日全日本リレー大会では、久しぶりに団体総合優勝を果たすことができました。表面に現れた直接の得点は既報の通りですが、今年の優勝は一般クラスも含めて神奈川県チーム全員の力によるものだと思っています。優勝チームの責任として優勝に至るまでの取り組みをご紹介します、次年度の挑戦を受けたいと思います。

今年の神奈川県の取り組みは主要メンバーのリクルートから始めました。その中でも関東に異動になった女子の一人者番場選手をメンバーの一員に加えることができたことが大きく、今年は久しぶりに団体総合優勝を狙う取り組みができるかもしれない、という考えが頭をもたげました。

団体総合の得点ルールでは、MEとWEの他にあと2クラスで強いチームが作れば勝てることになるわけですが、私の方針としては、できるだけ多くのチームを、そして願わくば全クラス出場を果たしたいということがあったので、さらに選手の補強を進め、最終的には選手権クラス12、一般クラス2のチームをエントリーすることができました。これが優勝に至った第一のポイントでした。結果として2年前までWEを走っていた3人をWSに回すという、贅沢なチーム構成になったわけです。

選考会を経て選手を選考し(ちなみに神奈川県は選考会ですべて決めるわけではなく、同クラスの選手による相互投票で最終的なチームおよびメンバーを決めます)さてどうやって盛り上げようかと思っていた時に期せずして選手の中からオクトーバーランに参加しようという声が上がリ、結果的に9名が参加することになりました。毎日トレーニング状況の報告をWeb上でできるようになっていて、最後までお互いに切磋琢磨してトレーニングすることができました。この他にも、神奈川県内のトレーニング地図を提供してくれる人も出てきて環境はばっちりでした。どんなことでもいい、「自分ができることを積み重ねてレースに臨む」これがなければ意味が無いし、これさえできればどんな結果も納得できるものとして受け止められるし、良い結果なら喜びも倍増する。これは私の信念ですが、これが実現できたことが第2のポイントでしょう。



総合優勝を決めた神奈川県

この後の取り組みは主としてMLやWebを活用して行いました。以下、大会前夜までに行ったことを列挙します。

- ・クラスごとに他県メンバーを予想し神奈川県チームの位置を確認  
これは同じ神奈川県のメンバーを知り合う結果にもなった
- ・旧マップを用いて、予想コースをWeb上で展開
- ・レース展開のシミュレーションを行い、走順を相談
- ・WEチームのオフ会(というか秘密の作戦会議)  
やはりチームメンバーが直接顔を合わせて話し合うことは有効で、今回のWEメンバーが安心してレースできたのはこのお陰でした。
- ・「神奈川県」のぼり旗の作成(2枚で1万円程度)  
会場で目立たせることができ一体感を生んだ
- ・応援グッズの製作(みんなで小旗の作成をします)
- ・プログラム理解度テスト(前泊時のアイスブレイキング)

直前になって怪我による辞退が相次ぎ、2チームが崩壊したことが心残りですが、結果的には女子クラス完全制覇のみならず、全クラスで得点を挙げるといふ結果も残すことができ、冒頭に書いたようにチーム全員で総合優勝を勝ち得たと言える大会になりました。

この場を借りて、選手のみみなさんに感謝します。また他県の皆さんにも、神奈川県を盛り上げる一助になっていただき、ありがとうと言わせてもらいます。実際にMSで大阪、広島が、MJで愛知が頑張ってくれたことも、神奈川の優勝に役立っているのです。

来年は大阪、愛知も燃えているようですが、お互いに多くのチームを出して楽しみましょう！

(尾上秀雄)